

# 千葉大学医学部附属病院で大腸癌に対する全身化学治療を受けられた患者の皆様、ご家族の皆様へ

2025年10月6日

食道・胃腸外科

食道胃腸外科では、切除不能大腸癌に対する全身化学療法に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

## 本文書の対象となる方

2005年1月1日～2020年12月31日の間に食道胃腸外科で大腸癌に対する全身化学療法として FOLFIRI-3 療法を受けられた方

### 1. 研究課題名

「切除不能進行再発大腸癌に対する FOLFIRI-3 療法の治療成績」

### 2. 研究期間

2025年承認日～2026年3月31日

この研究は、附属病院生命倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

### 3. 研究の目的・方法

手術で取り切れない進行・再発大腸癌の方に対しては抗がん剤治療が行われます。抗がん剤治療には様々な薬剤が使用され、年々治療成績が改善してきています。イリノテカンと5FUとレボホリナートという薬剤を用いた FOLFIRI 療法という治療方法は、大腸癌に対する抗がん剤治療の中でも重要な位置づけになっています。当科では以前より上記薬剤の使い方に工夫を加え、イリノテカンと5FUを2回に分けて投与する FOLFIRI-3 療法を採用してきました。本研究は、手術で取り切れない進行・再発大腸癌に対する FOLFIRI-3 療法の治療成績を調べることを目的としています。

2005年1月1日～2020年12月31日の間に当科でFOLFIRI-3療法による抗がん剤治療を受けられた切除不能大腸癌の方を対象とし、診療録に記載されている情報からFOLFIRI-3療法の治療成績を調査します。

#### 4. 研究に用いる情報の種類

診療録に記載されている以下の情報を用います。

- 患者基本情報：年齢、性別、など
- 大腸癌の情報：原発巣の部位、転移の部位、治療前の腫瘍マーカー、など
- 治療関連情報：FOLFIRI-3療法を行った時期、投与量、治療効果、副作用など
- 転帰情報：生存期間、治療継続期間など

#### 5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：食道・胃腸外科 講師 大平 学

#### 6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院食道胃腸外科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧することができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

#### 7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

食道・胃腸外科 講師 大平 学

043（222）7171 内線 5294